

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 9 月 24 日現在

機関番号：14401

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2013～2014

課題番号：25884043

研究課題名(和文)近世ベトナムにおける中間権力層の地域史的検討

研究課題名(英文)An examination of the local influential person in the early modern period from the viewpoint of regional history

研究代表者

上田 新也 (UEDA, SHINYA)

大阪大学・文学研究科・招へい研究員

研究者番号：00713538

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は近世ベトナムにおける集落の成立過程と地方有力者の検討を目的とし、ゾイテー集落において野外調査を行い、以下のことを明らかにした。第一にゾイテー集落は清化集団の一員である張雷の一族が入植することにより15世紀に成立した田庄であった。17世紀前半には張族の田庄経営は崩壊したが、その後も張族は集落の徴税請負人として影響力を維持している。第二に17世紀中頃の碑文に現れる張曰貴は、上記の張族の子孫である。この村には彼を祀ったデン(神社)が20世紀前半まで存在しており、そこでは彼は張族の祖先神としてではなく、集落全体の守護神として祀られていた。これらは、清化貴族集団の土着化を示す一事例といえる。

研究成果の概要(英文)：This study is aimed at examining the historical transition of village colonization and local influential person in the Vietnamese early modern period. For this purpose, I carried out field investigation in Gioi Te village, and revealed as follow. First, Gioi Te village opened in the first half of the 15th century by relative of Truong Loi who was a member of Thanh Hoa group, and was a manor of Truong clan at first. The manor management by Truong clan was collapsed in the early 17th century, but Truong clan maintained their influence as tax farmer of Gioi Te village. Second, Truong Viet Quy who was recorded as influential man in some inscriptions of middle 17th century was a descendant of Truong clan mentioned above. The village had a shrine deifying him until the first half of 20th century. In this shrine, he was not deified as ancestor god of Truong clan, but as deity of whole village. These facts show us an example of the settlement process of Thanh Hoa aristocratic group.

研究分野：ベトナム史

キーワード：近世ベトナム 村落史 碑文 村落文書 中間権力

### 1. 研究開始当初の背景

ベトナムでは北部の紅河デルタと中心として、東南アジアではやや例外的な強固な自律性・自治性を持つ村落群が分布していたことが、20世紀初頭の欧米人研究者を中心に報告されている。現在の社会主義政権においても、ドイモイ政策以降の農業合作社の崩壊によりラン(làng)と呼ばれる自然集落の復権をもたらしているといわれており、伝統的村落が現代ベトナムで今なお大きな社会的影響力を持つ存在であることを示している。

紅河デルタで特に顕著とされる強い自律性を持つ伝統的村落群については、桜井由躬雄氏により17～18世紀にかけて祖型が成立したとされてきた。桜井氏によれば、当時の中央政権の弱体化とそれともなう中間権力の増大が、村落の自律化を促すことにより中間権力を抑制しようとする政策に繋がっており、これは農業開発が既に限界に達していた紅河デルタ社会では流民の流入や中間権力者による搾取を排除しようとする各村落の思惑とも一致していた。そして両者の利害が一致した結果、紅河デルタの村落群は次第に自律性を強めたとする。しかし制度史研究の不備や史料の限界により、当該期の村落支配や中間権力の具体像を描くことはできなかった。

このような状況を受け、応募者は桜井氏の村落史研究後に利用が可能となった史料を活用することにより17～18世紀のベトナム北部を支配した黎鄭政権の統治機構や村落の解明に努めてきた。その結果、黎鄭政権では建前上は「黎朝」でありながら、実権を握る鄭氏により財政機構と軍事機構が一体化した軍管区制に近い独自の統治機構が構築されていたこと、社会面でも農業開発の限界ともなって地縁的・血縁的紐帯を媒介とした様々な社会組織が構築され、開放的な自然集落が次第に閉鎖的な村落共同体へと変貌していったことを明らかにした。またこのよ

うな自律的村落の成立と民衆レベルへの儒教の普及が相互補完的な現象であることを指摘して、ベトナム近世社会の成立が東アジア地域における「小農社会」の成立とも共通する特徴を持っていることを指摘した\*3。しかし、このような社会状況が、政治面における黎朝制度の形骸化と鄭王府の出現にどのように結びついていたかについては未だ論考は及んでいなかった。

### 2. 研究の目的

本研究は、上記の状況を受けて、未解明のまま残されている17～18世紀ベトナムの中間権力層を地域史の観点から実態を解明することにより、応募者が進めてきた近世ベトナムの統治機構・官僚制度史研究と村落史研究を接合し、近世ベトナムの国家・社会の全体像を描くことを目的とした。

これは単にベトナム史への重要な貢献であるにとどまらず、近年リーバーマンなどを中心に進められている政治的・文化的統合の進展をキーワードとして東南アジア史をグローバル・ヒストリーの中に位置づけようとする試みに、ベトナム史の立場から貢献することができる。また中国・朝鮮・日本という枠組で論じられてきた小農社会論に対して新たな比較の事例を提供することができ、同時にベトナムを東南アジア史のみならず、東アジア史の枠組みの中で論じることを目指した。

### 3. 研究の方法

本研究では17世紀後半から18世紀初頭に徴税請負人として活動していた界際社の張曰貴なる人物を事例として黎鄭政権期の地域社会に中間権力層を位置付けることを試みた。

このため現地調査では主として2つの調査目標を設定した。第一に張曰貴の出身村落を中心に現地調査を実施し、彼とその一族につい

ての史料・現地情報を収集した。第二に調査範囲を周辺村落にまで拡大し、古地名の収集と19世紀初頭の土地台帳を照合し、出身集落も含む地域社会における農業開発や土地集積の進展状況、村落の自律化などを多角的に検討する。この他、漢籍を収蔵するハノイの文書館において関連史料を収集した。

これらの作業を通じて、張曰貴とその一族の資産形成や在地社会における位置付けを明らかにした上で、応募者自身がこれまで進めてきた統治機構研究や村落史研究と結び付けつつ、ベトナム近世社会の全体像を描くことを目指した。

#### 4. 研究成果

本研究ではゾイテー集落、及びその周辺の集落において史料収集、及び聞き取り調査のために野外調査を実施し、以下のことを明らかにした。第一にゾイテー集落は清化集落の一員である張雷の一族が入植することにより15世紀に成立した集落であり、もともとは張一族の田庄であった集落と考えられる。17世紀に張族の田庄経営は実質的に崩壊したと考えられるが、その後も17世紀後半に張曰貴を始めとして張族はゾイテー集落の徴税権を購入することにより徴税請負人の地位に就いており、依然として大きな影響力を維持し続けていたと考えられる。集落内には彼を祀ったデン（神社）が20世紀前半まで存在しており、そこでは彼らは子孫の張族のみならず、集落全体の守護神として祀られていたとのことである。これらは15世紀に前期黎朝期に武人貴族として大きな勢力を持った清化集団が、紅河デルタに移住した後、次第に土着化していったことを示す位置事例であると言える。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計3件)

Ueda Shin'ya, On the financial structure and personnel organization of the Trinh Lords in seventeenth to eighteenth century North Vietnam, *Journal of Southeast Asian Studies*, vol.46, no.2, 2015. (査読あり)

上田新也「ベトナムの村落と地方文書」『歴史評論』785、2015年(掲載予定、査読なし)

上田新也「十九世紀前半ベトナムにおける家族形態に関する一考察」『アジア遊学』186、2015年(査読無なし、掲載予定)

〔学会発表〕(計4件)

上田新也「17～18世紀紅河デルタの村落社会 - 旧ハータイ省フンチャウ社の事例を中心に - 」、日本ベトナム研究者会議(東京大学駒場キャンパス)、2014年5月14日(招待講演)

Ueda Shinya, Hinh thanh dong ho truyen thong dan toc Kinh o xung quanh Hue tu the ky 18 den the ky 19, 南部社会学院(ベトナム・ホーチミン)、2014年8月15日(招待講演)

上田新也「17～18世紀紅河デルタにおける地方統治と村落社会 - 旧ハータイ省フンチャウ社の事例を中心に - 」東南アジア学会(立教大学池袋キャンパス)、2014年12月14日(招待講演)

上田新也「ベトナム北部・中部における農業開発の歴史地理学的検討、東南アジア研究の国際共同研究拠点年次研究成果発表会(京都大学東南アジア研究所)、2015年2月19日(招待講演)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6．研究組織

(1)研究代表者

上田新也

大阪大学・文学研究科・招へい研究員

研究者番号：00713538

(2)研究分担者

( )

研究者番号：

(3)連携研究者

( )

研究者番号：